

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ひかり美唄西(放課後等デイサービス)		公表日		2026年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		・広さは適切だが、経年劣化で改修が必要な場所がある。 ・部屋数が多く場面や状況によって利用できる。	部屋数と広さを活かして、静的、動的な活動に合わせてスペースを使っています。また、クールダウンができる部屋も確保しています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	・職員については適切に配置している。 ・職員が全体を見られているか確認し、他の部屋に子どもがいる場合も様子を確認できるようにしている。	適切な配置数を安定的に確保するため、現在職員の募集を行っています。また、職員の休み等で職員数が足りない時には、ひかりと連携を取り送迎にあっています。さらには、他の事業所からヘルプを要請する体制も整えています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2	・写真やイラストを用いてやるべきことを明確にしている。 ・「青い部屋＝静かに過ごす」「中央療育室＝主たる活動室」「ピンクの部屋＝相談、個別対応」と分かれている。	各部屋床の色を変えたり、ホワイトボードを用いての視覚支援など、わかりやすいように工夫しています。バリアフリーについては、玄関や部屋と部屋の間に段差があるため、今後解消の必要性を検討していきたい。床などの歪みについては、都度補修を依頼するようになっています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	・日々の清掃と、必要に応じての環境整備を行っている。 ・トイレの洗面台が狭く感じる。	毎日必ず清掃を行い、整理整頓することを心掛けている。また、感染症の対策として物品の消毒の他に換気や加湿も行うようになっている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	・個別で使用できる部屋があり、気持ちを落ち着けたいときや静かな環境を好むお子さんが過ごす場所として利用している。	毎日必ず清掃を行い、整理整頓することを心掛けている。また、感染症の対策として物品の消毒の他に換気や加湿も行うようになっている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	1	・毎朝のミーティング、送迎後の時間を利用して、日々の子どもたちの様子や出来事を共有している。 ・毎月の支援会議の中で子になることを出し合い話している。	日々の話し合いの場を設けている以外にも、事業所会議を行い、子どもに対する支援の方法などを話し合っている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	・毎年、評価アンケートにご協力いただきその結果を指導員間で共有している。 ・評価表回収後に保護者様からどのような意見があったかを確認し改善に繋げている。	保護者等の意見を真摯に受け止め、職員間でも話し合い、業務改善につなげている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	・会議日を設定し、全員で話す場を設けている。 ・統括責任者と定期的に話す機会がある。	主に事業所会議において、議題や意見を出してもらい、集約した結果を業務改善につなげている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7	・第三者による外部評価は行っていない。	第三者による外部評価は行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・多数の研修の機会を設定して職員の専門性の向上につなげている。・外部研修に積極的に参加している。・社内研修を年数回開催している。	外部研修の他に、事業所全体の研修や事業所間研修、分野別の研修など、多種多様な研修を受ける機会がある。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		・職員間で話し合い、支援プログラムを作成している。 ・作成後は共有し、日々の支援の参考になっている。	支援プログラムに関しては適切に作成されホームページにて公表しております。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		・アセスメントを行い、分析をしたうえで計画を作成している。 ・指導員間で会議を開催し、ニーズや課題を基に計画作成に向けた話し合いをしている。	アセスメントを細かく行い、分析すると共に、本人や保護者のニーズを基に職員会議を開き、個別支援計画を作成している。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・作成前に会議を開催し、共通理解のもとで作成している。	支援計画を立てる際には児発管だけの視点にならないように評価会議・アセスメント会議・支援計画原案を基にした会議を開き、検討を重ねた上で計画を作成している。

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		・職員間で計画を共有し、内容を把握したうえで支援の繋げている。	子どもに関わる全ての職員が個別支援計画の内容を把握しており、計画に沿っているのかを確認しながら、支援を行っている。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	・日々の行動観察を行っている。 ・共通のアセスメントシートを使っている。	全事業所共通のアセスメントシートを使用しており、日々の行動観察も併せて行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		・ガイドラインに沿った項目で計画を作成している。 ・優先順位が絞られ無理のない範囲で設定している。	ガイドラインに基づいた個別支援計画を作成し、1つの目標に対して、3つ以上の具体的な支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	・月に一回レクリエーションにかかわる職員が会議を開催し、プログラムを立案している。	レクリエーションを担当するメンバーでチームを作り、話し合いを行った上で立案をしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		・子どもたちの発達に合わせ、5領域を考慮した活動をプログラムしている。 ・その日利用しているお子さんに合わせ工夫している。	子ども達に様々な経験をしてもらえるよう、以前の内容を確認して重ならないようにしたり、季節に合ったものを取り入れる等工夫している。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		・状況に応じて、個別と集団をバランスよく組み合わせている。 ・課題などの個別活動、レクリエーションでは集団活動を取り入れ、その時々に合わせて支援をしている。	個別活動と集団活動を組み合わせながら、子ども一人一人に応じた計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		・朝のミーティングで支援内容を確認している。	朝の打ち合わせで、その日の活動の確認を行うようにしている。大きい行事を行う際には当日の確認だけではなく、全体会議の場でも確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		・送迎後、職員間でその日の振り返りを行っている。 ・支援終了後のみではなく、必要に応じて情報共有している。	送迎後にその日の振り返りを行うようにしている。その他にも、空き時間を使って気が付いたことを話し合ったりしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		・当日中に支援記録を記入し、改善が必要なものはすぐに取り組むことができるよう検討している。	支援記録は当日記入するようにし、計画会議の際の支援の検証や改善に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		・定期的にモニタリングを行っている。 ・定期的に見直しを行っている。	半年に一度保護者と面談をし、評価を基に個別支援計画の見直しが必要か判断している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	7		・活動の中に複数組み合わせ取り組んでいる。	「自立支援と日常生活の充実のための活動」、「多様な遊びや体験活動」、「地域の交流活動」及び「子どもが主体的に参画できる活動」を複数組み合わせながら、個別支援計画を作成し、保護者との面談時に説明を行い、同意を得ている。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		・お子さんが自己決定しやすいように、イラストや写真などを用いるなど、わかりやすい方法を使って説明を行っている。	レクの中で個人で選択できるようにする等、自己選択、自己決定が行える力が育つように日々療育にあたっている。	
	関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		・児発管が参加し、情報の共有、提供を行っている。	担当者会議等、情報共有ができる場児発管が参加しています。
		27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		・必要があれば、通院同行し保護者様と意思の話を聞いている。 ・担任の先生と話す機会を設け情報共有をしている。	児童が受診する際に病院へ同行したり、事業所での児童の様子を書いたものを医師にお渡しし、アドバイス等をいただいている。また、学校を訪問し児童の様子を見ると共に、担当の先生から話を聞き日々の療育に役立てている。
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		・年間行事、行事予定、下校時間の確認、お子さんの細かい情報等その都度連絡し情報共有を行っている。	子どもの様子を共有するため、学校訪問を行っている。また、下校時間確認のため学校に電話で確認をすることもある。	
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		・利用していた施設等とは連絡を取り、情報提供を求めている。	電話や訪問等で保育園・幼稚園と情報交換し、情報共有を行なっている。	
30		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		・必要に応じ情報提供を行っている。	障害福祉サービス事業所へ移行する子どもがいる場合は、必要に応じて情報提供を行っている。	
31		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	2	・開催している研修に参加している。 ・助言等は受けていない。	現在助言は受けていないが、必要なケースがでてきた際には、こちらから働きかけて助言を受ける機会を設けていきたい。	

関係機関や保護者との連携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	5	・事業所間での交流はあるが、地域の中で他の子どもと活動をともにする機会は作っていない。	これまで児童館等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がないため、今後検討していきたい。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	7		・児発管が参加している。	自立支援協議会に児発管が参加している。また、こども部会が2025年1月に発足し、こちらにも児発管が参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・送迎時にその日の様子を伝えている。 ・電話やLINEを使つての連絡も取っている。 ・モニタリングや支援計画の説明時に話をしている。	個別支援計画の面談以外にも、送迎時や連絡帳を通して伝えている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		・毎年、保護者向けの学習会を開いている。 ・物作りの機会を設けている。	7月と10月に保護者に向けた学習会を開催し、家族の対応力の向上を図っている。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		・契約時に説明を行っている。	契約時に一つ一つ説明を行っている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		・意向を確認する場を設けている。 ・子どもや保護者様の意向を確認し記入している。	こどもや保護者の意向を記入する欄があり、必ず意向を確認している。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		・個別支援計画を提示しながら内容説明を行い同意を得ている。	保護者との面談時に計画を見てもらいながら説明を行い、同意を得ている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		・保護者様の希望に沿って、日時、場所を調整し面談を行っている。 ・相談に対しての助言を行っている。	連絡帳での相談は、連絡帳や電話で対応している。送迎時の相談については、内容によっては一度事業所に持ち帰り、事業所内で話し合ってから対応する場合もある。他にも個別支援計画の面談時に相談を受けることもある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	7		・保護者向けのレクリエーション(リース作りなど)を設定している。 ・交流できるようなイベントを開催している。	7月、8月、9月、10月、12月には、親子レク、イージーベースボール大会、保護者学習会(2回)、保護者交流会を開催し、保護者交流の場を設けている。また、イージーベースボール大会はきょうだいの参加も認められており、実際に参加している。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		・申し入れがあったときには適切な対応をしている。 ・いつでも話しやすい対応を心がけている。苦情についてはスピード感をもって対応できるように体制を整えている。	申し入れがあった場合は真摯に受け止め、できるだけ迅速に対応するようにしている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		・毎月おたよりを発行している。 ・必要な連絡はLINEも活用している。	事業所で過ごす子ども達の姿を保護者の方に知っていただけるように、毎月のおたよりの他に、2ヶ月に1回、子ども達の活動の様子を載せたプリントを発行している。また、インスタグラムでも活動の様子を紹介している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		・個人情報記載のファイルは目隠しのある棚に収納している。 ・個人の配布物は慎重に確認し配布して知る。	名前が入っている書類はシュレッダーするようにするなど、職員一人一人が十分注意をするようにしている。
44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		ホワイトボードでの視覚支援を行い、わかりやすいようにしている。 ・伝わりやすいよう心掛けている。	口頭の説明だけではなく、写真やイラスト等を使って、子どもや保護者が解りやすい方法で伝えている。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		・地域の方に、夏祭りの招待状を配っている。 ・子どもたちとチラシを配っている。	地域の方にも保護者交流会のご案内をし、参加していただいている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		・各マニュアルは策定している。 ・防災、防犯委員会、感染防止・衛生委員会を設置し見直しをしている。	事業所内でマニュアルを策定し、それを基に訓練を行っている。保護者の方には行事予定表で訓練の日程をお知らせしている。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		・定期的に避難訓練を行っている。 ・BCPを策定し、研修を行っている。	風水害・地震・雪害・火災を想定した訓練を定期的に実施し、実際に外へ避難したり、災害非常食の Pasta を試食したりもしている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		・毎年4月に調査票を記入していただき情報の確認を行っている。	契約時や毎年4月に利用者調査票を記入してもらったり、アセスメントを行うときに状況を確認している。情報については、職員間で共有するようにしている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		・保護者様への聞き取りで確認している。 ・アレルギー調査シートを活用している。	利用者調査票などにより、アレルギーに対して保護者からの情報確認がとれている。情報については、職員間で共有するようにしている。

非常時等の対応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練では子どもたちの安全を最優先した計画し実践している。</li> <li>・警察や消防にも依頼し訓練を行っている。</li> </ul>	安全な環境が保たれているか、子どもを受け入れる前に確認している。また、事故の再発防止等について会議で協議し、安全対策を講じている。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の様子等、おたよりでお伝えしている。</li> </ul>	契約時に事故発生時の連絡体制等について、保護者の方に説明を行っている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所会議の中で共有し検証している。</li> <li>・再発防止に努めている。</li> </ul>	ヒヤリハット発生の際にはカンファレンスを行い、それを基に事例集を作成して事業所内で共有している。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内外の研修に参加し、虐待防止に努めている。</li> <li>・研修に参加した職員からの伝達研修を行っている。</li> </ul>	外部の虐待防止研修については、事業所内の職員が1名以上参加することとされており、会社内部全体での虐待研修もあり、機会が確保されている。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に記載し、十分な説明をしたうえで了承を得ている。</li> </ul>	身体拘束については、利用者の安全を第一に考え、職員間で検討し個別支援計画に記載している。保護者の方に了承を得た上で、やむを得ない場合に限り行っている。